

# アエガキ

石田

サイクリング部に入った頃といえば、古木さん、小川さん、そして鈴木さんは中心にあってクラブを動かしていたし、4年だった小島さん、三浦さん、石川さん、よく教室で見かけた（だいたい三浦さんの隣にいた）小川さん、直藤さん、赤見さんといった面々が教室を私域としていた。といても4人組同士に明け暮れていた訳だけど。石川さんなんか（今思えば）本当に観察のじがいがあつた。よく石川さんの頃の印象がとつても強い方だから（一年の頃からよく教室に顔を出すようになったから）本当に面白いものだと思う。

で、面白そうそう（本当に“そうそう”って感じ）その7000番台を思い出せば、久しぶりに4年生と（これは無理、話さないと少なかったと）あつた。気持ちよく話さないとができてよかった。思っている。

で、今、7000番台と本当にさう思うと（まあ、ぼくにだってこれはよくある話で...）ちとちと、けど確実に10代の意識が変わったような気がしている。ほかの？ 昔はどうかな？ まあ、新しいクラブをつくる気持ちでかまはつていきな、思いつく。

1981.1.26. 深夜.

# トクオキノ

# ドウダモイハナシ

1980年、8月20日、天候不順の東京で石田あつみさんは鬼想的向題性、肉体的向題性の烙印を押され、敢え無く日本社会から隔離されてしまったが、新庫を賑わすまでには到らなかつたのは不幸中の幸いであった。脳細胞欠陥の原因は明らかであった。過量と過飽、情報過多社会から是れ情報過少社会に移り住み、極度の情報不足から生じたのである。生まれながらにして情報を常に体内に取り入れていこうと生きていけない情報中毒にかかっていたのである。肉体的欠陥は、その3日ほど前に食べたカエルの足が原因とも考えられるが、いまは不明である。はっきりしているのは、倉合宿のクリームパン事件からしてわかるように、あつみ君はダチョウの胃袋をもっている、ということである。

隔離されてすぐに肉体的欠陥はサヨウナラ...という訳で毎朝、し時起床、ラジオ体操をして運動不足解消、というのは大ウソだけど既立で伏せぐいほしていた。向題は脳細胞だった訳で、あつみ君は肉体的に「知識の吸収」(情報がないと情報が無い)をせねばならなかった。ハイ。

(語調をかえて...)

まあ、現状は察しの通り、何もすることがなかったのが活字を読んだ、というだけの話であります。普段からマンガを読まないあつむ君でありますから、当然マンガは読みませんでした。そのかわり(?)毎朝2時間以上かけてこれでもかと思うほど新聞をほじくりかえしていました。最近売れ行き落ち目の「文芸春秋」なる月刊総合雑誌もリキを入れて読んでいたりしていました。(文芸春秋は腰を据えてじっくり読むとために百ります、念のため)  
(ウッ、三ヶ井病がうつったようだ...)

(余談ですが)化学科には1ヶ月入院して本30冊読破の文学青年がおります、彼の部屋は下宿屋のに文庫本の山であります。(フォート大げさのようだ)

晴れて日本社会に復帰したあつむ君、部室ではほんと、こうにかかっていたことになっていたりして。斎藤さん、「イヤ、イヤ、アレだよアレ...」

いっせー  
馬加 健

「オ～イ、小杯～！吉田つれて飲みに行こうぜ！  
ボトルもはいてるからさ、  
野中も一緒に行こうぜ！あつむからさ。」

# パート・ワウ

ポカポカ陽気のお昼すぎ、もう天文台のそばは  
あわつたかな、右んて思いながら家の近くをのんびり  
歩いていると、突然ぼくの目の前に4さいぐらいの青い  
コートとズボンをはいたカワイイ男の子がトコトコと  
やってきて、立ち止まったかと思うと突然(本当に突然)  
涙をポロポロと流しはじめたもんだから、もう本当  
にびっくりしたよね。さすがに無視できなくて、  
男の子の前にひざまづいて、

「どうしたの？」

「ママががえってこないの...」

「ママはどこにいったの？」

「...おにいちゃんのようにえんにいったの...」

「家はどこ？」

「... (?) ...」

「あうちはどこ？」

「... (あうち) ...」と指差すもんだから、

「じゃあ、あうちでもうましましてようよ。

そしたらかえってくるから。」

右んて適当にごまかして(もう逃げ出したハート  
に)ぼくは男の子の手をとった。この男の子の手と  
いうのが「チキチキかわいくて、手をつなぐ」といっ  
てもぼくの子指にしがみつく感じで、おまけに  
涙にぬれてはいるせいもあるけど「ママあてたかい。」

もう、ニッコリしたような、うれしいような、よくわからぬ気持ちのまま 男の子の家のドアの前まで「トコトコ歩いて、

「じゃあね、バイバイ。」

といて逃げ出した。少し歩いて後ろを振り返ると、左手とドアの取っ手にかけてまぼじとこっちを見ているもんだから（アー、どうしようかあー）むくむく思っただけで、したことと叫びたさ左手をあげてハイハイだった。（マ、マ、マ、モウ、）そうしてさ男の子も右手でバイバイ。（バイバイ）

また歩きはじめても、まだあのカワイイ手の感触が残っていて、俯きながらニコニコしたりしていた。

（1978.4.15. 晴）

こゝろ出発事があった約1ヶ月前、本当に久し振りに（もう何年ぶりという感じで）幼なじみのあいつに会って話すことができて、あいつが

「男の子さんだから、頑張りなさいだめさ」  
むくむくおまじしてくれた。男の子さんだから、と言われた時のあの気持ち。ヨシッ！がんばるぞ、っ？1年間はがんばるもんね、本当に。

「男の子って、あつしたことですぐ頑張りからかわいわ。」

「すー！！」

# アトガキ

1月1日 初日の出ラン・城山湖・八王子城跡  
(友人2人と 夜3時半、自電出産)

6月22日 大池山寺  
(友人1人と、夜行で信濃川上へ)

10月4日 ヤゼツ山寺 (今泉で4人と)

10月11日 本栖湖～河口湖  
(T.T.の前日, 1人で)

最初はフリーランのことと友人が書くのが好きだと思って下書きまでしたのですが、うまく書けなくてやめにしています。まあ、日記にちゃんと書いてあるし、クラブにはツーシートを出してあるし、別にとり下して書くこともあったらと思うのです。

あと、インドネシアのことと書くのが好きだと思って書いたけどまあ、書くのをやめにしました。夏合宿と重なるってしまい、夏合宿に行けなかったのは残念だったけど、本当に行けてよかったと思っています。今までと違った環境の中に身を置くことがやはり、自分が見えてくるようです。特にその人との接触を通して。

ここまで書くのに本当に苦労した。もう下書きを何回もしたもんね。特にマエガキとポート・ツーの後半部分は。来年はもっと楽に書きたいね。そういえば名前を忘れていたけど、書かなくてもわかるね。